



3年学年だより

発行日：令和3年10月29日（金）

発行者：横浜市立南高等学校附属中学校

校長：遠藤 広樹 NO. 6

学問(研究)のすゝめ

校長代理 冨樫 哲一

10月18日（月）には、3学年の生徒、保護者の皆さんを対象とした「南高等学校への進学に関する説明会」を開催いたしました。来年度に南高等学校へ入学する意思を改めて確認するに当たり、南高等学校の教員から「進路指導」「教育内容」「『EGG』から『TRY&ACT』へ」等についての説明がありました。

進学を控えた3年生の皆さんは時折メモをとりながら話を聴くなど、いつにもまして真剣な様子が見られました。「進学に関する説明会」の後には、「単位を落としたら卒業できないことを改めて言われたので勉強を頑張ろうと思った」のような、中学校と高校との違いへの戸惑いを感じたものや、「英語の自学がすごい大事なんだと思った。遠い感じだった高校が少し近くなった」のように、高校のことが少し分かって安心した様子を感じられるものなど、3年生の皆さんの様々な感想が寄せられました。改めて中高一貫教育校として、生徒・保護者の皆さんには3年生に限らず、折に触れて南高等学校のことについて情報を発信する必要があると感じております。

また、「進学に関する説明会」の中で、南高等学校の大学進学状況についての説明がありました。生徒の皆さんは、国公立大学や有名私立大学に進学した先輩たちの実績に、将来の自分を重ね合わせたのではないのでしょうか。そこで今回はちょっと先の話になってしまいますが、大学のことについて少し話をしようと思います。

突然ですが、皆さんは大学は何をすところだと思いますか。「勉強をすところ」という答えが多いかと思います。私は「学問(研究)をすところ」だと思っています。大学は確かに勉強すところではありますが、「学問(研究)」をすために「勉強」をすのです。

大学での「勉強」は小学校、中学校及び高等学校の「勉強」とは違います。高等学校までの「勉強」は国が定めた学習指導要領によって学習する内容等があらかじめ決まっております、学校によって大きな差は生じないようになっています。しかし、大学では、世の中の多様な価値観の中から「何のために生きるか」、「これからどのように生きるか」等の問いに対する答えを見つけ出すという「学問(研究)」を行うために「勉強」をします。当然のことですが、人によって、研究する問い(テーマ)はそれぞれ違うので、しなければならない「勉強」の内容もひとそれぞれになります。

さて、先ほど「人によって研究する問い(テーマ)はそれぞれ違うので」とさらっと述べましたが、研究テーマについては、私はかなり自分自身に対して落胆した思い出があります。私は7年前、政策研究大学院大学という大学院に横浜市から派遣され、1年間だけですが学生をしていました。大学の授業は、「統計学」「経済学」「政策立案」等の私の専門外のことが多かったのですが、自分の知らないことを知ることができて、「勉強」すること自体は実はとても楽しかったのです。

しかし、大学院修了に当たり修士論文をかくために「研究」をしなければならない時期になると、とにかく苦しみました。研究する問い(テーマ)が見つからないのです。そのとき私は初めて自分が「研究」するために「勉強」していたのではなく、「勉強」するために「勉強」していたことに気付きました。

ですが、皆さん安心してください。現在の学習指導要領では、中学校では「総合的な学習の時間」高等学校では「総合的な探究の時間」という時間があり、大学での研究活動への準備もしっかりと行われています。特に、南高等学校附属中学校と南高等学校の『EGG』と『TRY&ACT』は他の学校に決して負けない素晴らしいものだと思っております。

皆さんならば私のようにテーマ探しに悩むことなく、学問(研究)をすことができるはずですよ！

卒業研究 中間発表会

10月21・29・30日の3日間に渡り、卒業研究の中間発表会が行われました。夏休み中に行った調査やアンケートをもとに、今わかっている範囲での自分の研究について発表を行いました。クロームブックを使いスライドを作成し、図や表なども入れて聞いている人にも分かりやすい発表ができていましたね。この会を経て、自身のテーマの結論に向けてやるべきことが明確になったのではないのでしょうか。1月の提出に向けて、引き続き研究をしっかりと行っていきましょう。11月には高校の先生方とのアドバイザー面接もありますので、自分の研究について簡潔に伝えられるように練習しておきましょう。



○3年生対象 令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果

3年生を対象として5月27日（木）に実施された令和3年度全国学力・学習状況調査の結果をお知らせします。各教科の調査問題は国立教育政策研究所のホームページからダウンロードすることができます。

	「国語」の平均正答率（％）	「数学」の平均正答率（％）
本 校	88.6	85.6
全国（公立）	64.6	57.2

3作品が全国大会出場！

10月7日に第65回日本学生科学賞神奈川県作品展が開催され、本校科学部が優秀な成績を収め、3年生4名の作品が11月に行われる全国大会（中央審査会）に出場することが決定しました。エントランスに作品が展示されていますので、ぜひご覧ください。以下受賞者のコメントです。

【神奈川県知事賞】4組 ■■■■■さん

作品名：休耕田が油田に変わる！？～オイルを生み出す藻類を効率的に培養する方法を追究する～

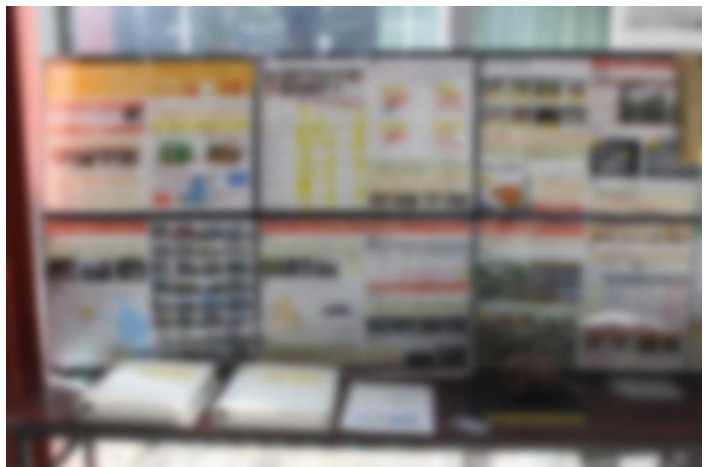
私の研究は“ミドリムシや海藻などの藻類と呼ばれる植物を効果的にかつ大量に培養する方法を探す”というものです。藻類の中には化石燃料のかわりに“オイル”を含むものがあるためそれを日本で使われていない田んぼの5%を使って育て、使うことで日本中の電気を賄えるそうです。家での実験で時には庭にある培養している水槽を全部なぎ倒されることもありました。しかも2回も！！本当にトラブルの連続でした。なんだかんだありつつも最優秀賞を受賞できたのはたくさんの方の支えがあったからです。家族に蛭田先生、科学部のメンバー…。出せばきりがありませんが、支えてくれた人たちには感謝してもしきれません！！本当にありがとうございました！！



【神奈川県教育委員会教育長賞】1組 ■■■■■さん・3組 ■■■■■さん

作品名：都会のササラダニⅡ～街のサバイバルを生き抜く小さな旅人～

私たちはササラダニという生物について研究しました。ササラダニとは、基本的に森林などの自然環境の豊かな場所に生息し、腐葉土やバクテリアなどを主食とする、穏やかで可愛いダニです。そのササラダニが、都会のビルの屋上という過酷な環境にも生息していることが分かり、その原因を追究しました。この研究をしていく中で、休日に街の隅に座り込んで苔を採り、不審者を見るかのような冷たい視線を向けられるなど、大変なこともたくさんありましたが、3年間続けてきたものが形になり、結果も頂けたことに大きな達成感を感じています。様々な面で協力してくださった蛭田先生、支えてくれた部員や家族、そして新しい世界を見せてくれたササラダニたちへ、本当にありがとうございました。ここから全国に向けて、更にながらんでいきたいと思っております！



【県立青少年センター館長賞】 3組 ■■■■■ さん

作品名：セロハンテープのズレを防げ！～「たけのこ現象」はなぜ起きる？～

最初はまさか受賞し、全国に進めるとは思っていなかったのですが、聞いた時はとても驚きました。これまでやってきたことが実り、本当に嬉しいです。僕はセロハンテープなどで起きる「たけのこ現象」という現象について研究しました。みなさんの中には、たけのこのように内側が上に飛び出したテープを見たことがあるという人もいるのではないのでしょうか？これがテープのたけのこ現象です。研究ではこの現象について、テープを置く場所の温度や湿度などを変えたり、テープの伸縮を調べたりして、メカニズムを解明していき



ました。地道な作業でしたが、ここまで進んでこられたのは指導して下さった蛭田先生、研究や実験を手伝ってくれた科学部のみんな、サポートしてくれた家族のおかげだと思っています。これからも研究をがんばっていきたいと思います！

人権作文コンクールにて全国大会出場！

第40回中学人権作文コンテストにて、1組 ■■■■■ さんの作品が横浜市大会では横浜市教育長賞、神奈川県大会では最優秀賞となり、県内350校75094編の応募より全国人権作文コンクール中央大会に推薦されました。横浜地方法務局のホームページに作品が掲載されています。ぜひご覧ください。以下本人からのコメントです。

作品名：「同情ではなく共感を、そして協力を。」

この度は作文を応募するにあたって、先生方をはじめ、多くの方に支えていただきました。本当にありがとうございました。全国大会出場を聞いて、正直とても驚きましたが嬉しくもありました。推敲を重ねた甲斐があったと思います。今回は私には障がいをもつ方の人権について考え、作文を書きました。小学生の時に色々と調べ、学んだ点字についてです。実際の日常生活でも点字を利用している方に会った経験を生かすことができました。今回このような機会をいただいたことを光栄に思い、今一度点字を学びながら自分にできることを行動に起こしていきたいです。